

群 教 セ	F12 - 01
	平 17.225集

「高等学校編情報モラル指導資料集」 の作成

長期研修員 田嶋 正幸

（研究の概要）

本研究は、急速に進展する情報社会で、適切な情報活用を行うための基本になる考え方と態度を高校生に身に付けさせるために、主に高等学校の普通教科「情報」における活用を目指して、情報モラルを指導する際に役立つ「高等学校編情報モラル指導資料集」をWeb形式で作成したものである。この資料については、情報モラルに関する群馬大学との共同研究に活用した。

キーワード 【情報教育 情報モラル 高等学校 情報】

主題設定の理由

現代の情報社会では、テレビ、書籍、新聞などのメディアに加えて、コンピュータや携帯電話によるインターネットの利用で、様々な情報を簡単に入手できるようになった。しかし、生活が便利になった反面、インターネットを通じてコンピュータウイルスに感染したり、ネットワーク上のトラブルに巻き込まれたり、個人情報が出たりするなど様々な危険に直面することになった。情報社会に暮らす私たちは、インターネット利用上の操作の知識・技術だけではなく、現実起こっているトラブルや事件などにも関心をもたなくてはならない。

県内高校生の実態として、9割以上の生徒が携帯電話を所有しており、うち約1割が出会い系サイトに接続した経験を持ち、しかもそのうちの2割を超える生徒が「特に問題はない」と感じているなど、危機意識が希薄であることが報じられている（上毛新聞2005年1月6日）。置籍校（群馬県立前橋商業高等学校）における「インターネットに関する調査」から、97.8%の生徒がコンピュータや携帯電話を利用してインターネットへ接続できる環境を有していることが分かった。このようにインターネットで多くのサービスを利用している反面、32.7%の生徒がネット被害を経験しており、そのうち何らかの対処ができた者は37.4%にとどまっていることが明らかになった。

高校生が被害者にも加害者にもなりうる現在、情報社会で生きていくために必要な「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」

すなわち情報モラルの指導をしていかななくてはならないと考える。インターネットを上手に利用するには、ルールやマナーを守るとともに、様々なトラブルに巻き込まれないようにしなければならない。そのため、学校現場においても、生徒が被害者や加害者にならないように指導を徹底することが急務である。

そこで、情報モラルを体系的に指導することに役立つ指導資料集を作成しようと考えた。情報モラルの指導のための年間指導計画、授業展開例及び授業時に活用できるプレゼンテーション教材などを作成するとともに、情報モラルにかかわる具体的な事例を自分の問題としてとらえさせ、どのように行動するか考えさせるワークシートも作成する。それらをWeb形式でまとめれば、教材研究や授業実践及び情報モラルを守る態度の意識付けに役立つと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

普通教科「情報」の科目「情報A」・「情報B」・「情報C」などにおいて活用することを目指して、教師にとって教材研究や授業実践に役立ち、その結果、生徒にとって情報モラルを守る態度の意識付けに役立つ「情報モラル指導資料集」を作成し、授業実践を通してその有効性を検証する。

研究の見通し

以下の手立てをとり、Web形式でまとめれば、研究のねらいに即した「情報モラル指導資料集」

が作成できるであろう。

教師にとって、教材研究や授業実践に役立てるために、小・中・高の情報モラルに関する指導系統表や、高等学校普通教科「情報」の科目「情報A」・「情報B」・「情報C」などの年間指導計画、授業展開例、指導内容の解説及びリンク集を作成する。

生徒にとって、情報モラルを守る態度の意識付けに役立つプレゼンテーション教材、ワークシート、確認テスト、自己評価表及び用語集を作成する。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 情報モラル指導の重要性

平成17年度の「情報化推進リーダー養成講座」に参加した小学校・中学校・高等学校・特殊教育諸学校210校を対象に行った「情報教育に関する調査(アンケート)」において、参加した高等学校32校のうち回答を得られた31校の結果を見ると、情報活用能力の育成に関して重要であると考えられる項目の第1位は「情報モラル」であった。

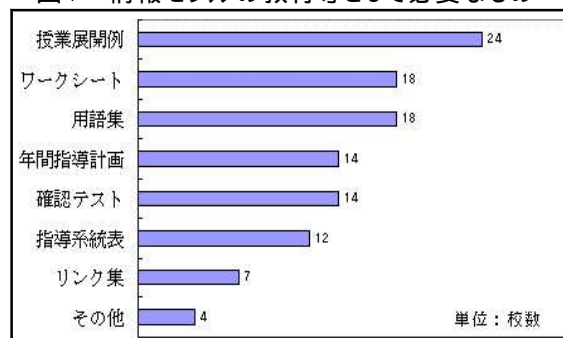
しかし、「情報教育の全体計画、指導計画などを作成していますか」という設問に、「はい」と回答した学校は約58%であり、そのうち「情報モラルに関する指導内容が全体計画又は情報教育の指導計画の中にありますか」という設問に、「ある」と回答した学校が約65%という結果であった。このことは、情報モラルの指導場面として最も有効と考えられる普通教科「情報」が、必修教科として教育課程に位置付けられていることを考えれば、決して十分とは言えない。これらの調査結果から、情報モラルの情報教育における重要性は理解しながらも、実際には学校全体として計画的にその指導ができていないということが分かった。

さらに同調査から、情報モラルの指導を行う際に活用している教材のほとんどは、インターネット上のWeb教材や冊子であり、多くの資料の中から必要かつ役立つ資料を収集することに苦労していることも分かった。また、「情報モラルの教材等として必要なもの」は「授業展開例」と回答した学校が最も多かったことが分かった(図1)。

(2) 指導資料集の構成の工夫

アンケート調査の結果から、教師の教材研究や授業実践で役立つためには、指導系統表、年間指

図1 情報モラルの教材等として必要なもの



導計画、授業展開例、指導内容の解説、用語集及びリンク集などをWeb形式でまとめた指導資料集が必要であると考え。そこで、情報モラルの「指導目標」・「指導場面」・「指導系統表」・「年間指導計画」を作成し、特に「指導場面」では、普通教科「情報」だけではなく、他教科やホームルームなどで情報モラルの指導を行うことも考慮し、どのような指導場面で、どのような内容の指導ができるかについても資料中に示すことにする。また、「指導系統表」では、小学校と中学校における情報モラルの指導内容を確認しながら、各学校の実態にあった年間指導計画を立案する上で参考になるようにする。さらに、指導内容に関するアンケート調査の結果に基づいて、指導内容を19テーマに精選し、すべての指導内容について授業展開例を作成することにする。また、教師が情報モラルの指導に欠かせない知識や指導方法を身に付けるために、指導内容の解説及びリンク集を作成することにする。

(3) 授業で役立つ工夫

生徒にとって、情報モラルを守る態度の意識付けに役立つためには、プレゼンテーション教材、ワークシート、確認テスト、自己評価表及び用語集をWeb形式でまとめた指導資料集が必要であると考え。情報モラルに関しては、教師から一方的に知識を与えられるだけでは、情報モラルを守る態度の意識付けにはならない。生徒自らの失敗した経験や、トラブルにならないように考えて行動することが、情報モラルを守る態度の意識付けに大変役に立つ。

そこで、情報モラルの指導内容を理解させ、正しい判断を行い、行動できるようにするために、プレゼンテーション教材、ワークシート、確認テスト、自己評価表及び用語集を作成する。

プレゼンテーション教材は、指導の内容をプレゼンテーションソフトを使用してまとめたもので

あり、実習を伴う授業であっても、モニタやスクリーンに提示できるようにする。

さらに、情報モラルの理解を図るために、具体的な事例を取り上げたワークシートを作成し活用することで、生徒に事例を自分の問題としてとらえさせ、どのように行動するかについてを考えさせ、まとめられるようにする。これにより、情報モラルを守る態度の意識付けができるようになる。ワークシートは、授業でそのまま印刷して活用できるようにPDF形式に加え、編集できるようにワープロ文書形式でも作成する。

知識の定着を図るために確認テストを作成する。その解説ページでは簡単な解説を加える。確認テストはPDF形式に加え、Web形式も用意し、普通教科「情報」において大きな比重を占める実習でも活用できるようにする。

自己評価表は、生徒自身が学習内容のポイントを再確認するために必要であるとする。

2 動作環境

- 基本OS Microsoft Windows98以降推奨
アプリケーションソフト
Adobe Reader
ジャストシステム 一太郎
Microsoft Word
Microsoft PowerPoint

3 指導資料集の構成

指導資料集の構成は図2のとおりである。

「情報モラルの指導場面」では、普通教科「情報」の各科目のどの場面で情報モラルの指導ができるかを明示した。「情報モラルの指導内容」は、アンケート調査の結果及びこれからの必要性を考えて19テーマに精選した。「情報モラル指導上の配慮事項」では、学習指導要領を踏まえた内容の取り扱いや指導における留意点について示した。

「情報管理のためのセキュリティ対策」は、学校で情報管理を主に担当している教師向けの資料である。個人レベル及び学校という組織レベルのセキュリティ対策の概略について作成した。また「セキュリティ上級編」として、「パスワード」・「ファイアウォール」・「暗号化」の三つを取り上げて解説した。「情報モラルの指導内容」にある「認証とパスワード」や「電子メールとWebのセキュリティ」及び「暗号とセキュリティ」と組み合わせると効果的である。

図2 指導資料集の構成



4 指導資料集の内容

(1) 情報モラルの指導系統表と年間指導計画

指導系統表により、普通教科「情報」の各科目のどの場面で情報モラルの指導を行うかについて示すとともに、本指導資料集の19テーマの指導内容がどの部分に該当するかを示した。それにより、指導内容を確認することができ、指導する際に役立つものと考えられる。

また、各科目を2単位で履修するものとして、年間指導計画例(図3)を作成し、情報モラルに関する学習内容を明示することにより、各科目の年間指導計画における情報モラルの位置付けを明

確にした。

図3 情報Aの年間指導計画例

内容	指導項目	情報モラル関連	配当時間
(1) 情報を活用するための工夫と情報機器	ア 問題解決の工夫	・インターネットの利用	3
	イ 情報伝達の工夫	・Webページの作成と公開 ・電子メールの受信と送信	4
	ア 情報の検索と収集	・インターネットの利用	9
	イ 情報の発信と共有に適した情報の表し方	・Webページの作成と公開 ・電子メールの受信と送信	6

(2) 情報モラルの指導内容

19テーマの指導内容について、指導内容の解説(図4)を作成した。これにより、教師が指導する内容を確認できると同時に、教師が自らの知識を増やすことができるようにした。表やグラフ及び図なども掲載し、分かりやすくなるように心がけた。使用するデータは、作成時点で判明している最新のデータを使用した。

図4 指導内容の解説



また、解説ページ内にある重要な事柄は、赤字で記載した。難解な専門用語や重要用語には赤字で下線を引き、すぐに確認できるように用語集にリンクを設定した。

さらに、特に指導しておきたい事項(図5)に

図5 特に指導しておきたい事項

図5には2つの「指導のポイント」が示されています。1つ目は「重要 安易に個人情報を公開しない」で、住所、氏名、電話番号、家族の愛称などの個人情報を掲示板などに安易に公開してはいけません。2つ目は「注意 他人のプライバシーに配慮する」で、他人の住所、氏名、電話番号や写真、私生活上の事柄や秘密を、勝手に掲示板やチャットに書き込んではいけません。

より、その部分のみを重点的に指導することもできるようにした。「重要」事項と「注意」事項に分け、「重要」事項の方が「注意」事項よりも指導上大切であると、それぞれにポイントとなる事項とその概要を示した。指導内容の重要なポイントが凝縮された部分である。

- 19テーマの指導内容のすべてに「授業展開例」
- ・「プレゼンテーション教材」・「ワークシート」
- ・「確認テスト」・「自己評価表」を作成した。

ア 授業展開例

授業展開例(図6)として、PDF形式、Web形式の他に、適宜編集して使用できるようにするためにワープロ文書形式を用意した。四つの観点からの評価項目を示してあるが、学校や生徒の実態に応じて編集できるようにした。

図6 授業展開例

時間	主な学習活動	教師の支援及び留意点	評価項目
25分	○個人情報とプライバシーについて、正しく理解する。	○個人情報とはどんなものかを理解させ、その取り扱いがもたらす影響について考えさせる。 ・個人情報の取り扱い、プライバシーの尊重と関連付けて考えさせる。 ・インターネット上に公開される個人情報を問題にする。 ・ワークシートを活用する。 ○個人情報の大切さを理解させ、公開しないことの重要性を考えさせる。 ・事業者による個人情報の取扱いについての問題を事例にたづねさせる。 ・個人情報が流出して問題になることを事例とおして考えさせる。 ・ワークシートを活用する。	<関心・意欲・態度> ○個人情報の大切さを認識し、それを公開することの危険性を意識して情報発信しようとする。 <思考・判断> ○個人情報の大切さを理解し、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。
15分	○個人情報の保護対策を知る。	○日本における個人情報の保護対策にはどのようなものがあるか理解させる。 ・難しい法令等は簡単に要点のみ説明する。 ・なによりも安易に個人情報を公開しないことが、最も対策であることを理解させる。 ・ワークシートを活用する。	<技能・表現> ○個人情報の取り扱いには十分に注意し、自分の個人情報ももちろん、他人の個人情報も公開しないようとし、無責任な個人情報の入力行為をしないようにする。
10分	○確認テストで学習内容を復習する。	○解説を加え、理解を深めさせる。	<知識・理解> ○個人情報の大切さを理解し、安易に個人情報を発信しないように注意することの重要性を身に付ける。 ※上記の四つの評価項目を参考に学校や生徒の実態に応じて評価する。

イ プレゼンテーション教材

生徒が情報モラルに関する学習内容を理解することに役立てることを目指して、指導内容を解説した教材をプレゼンテーションソフトで作成し、モニターやスクリーンなどに提示できるようにした(図7)。スライドはポイントを押さえた部分のみを作成し、スライドの枚数も10枚程度になるようにした。

図7 プレゼンテーション教材

図7は「個人情報の保護」をテーマにしたプレゼンテーション教材のスライドの一例です。スライドには「これだけは知っておこう! 安易に個人情報を公開しない! 犯罪に巻き込まれる可能性あり 個人情報は勝手に広まる」というメッセージが強調されています。

ウ ワークシート

情報モラルは体験を通して身に付けることが効果的だが、体験できる範囲は限られているので、本指導資料集では高校生の身の周りで見られ、興味をもつような具体的な事例を含んだワークシート(図8)を作成した。また、活用にあたっては、生徒が自分だったらどのように行動するかについてよく考え、正しく判断し、自らの生活で実践できるようにすることに留意する。

図8 ワークシート

次の事例について考えてみよう。

高校生のBくんは、家でインターネットを利用中に、面白いサイトを見つけました。「アンケートに答えると、海外旅行が当たる」というものです。Bくんは、さっそく必要事項(氏名、年齢、住所、電話番号、メールアドレス)を入力し、送信しました。それから3日後、Bくん宛てに「身に覚えのない通話料金の請求書」が郵送で届きました。屋敷を問わず勧誘の電話もくるようになりました。パソコンには迷惑メールがたくさん送られてくるようになりました。

Bくんの行為で、問題と考えられることがありますか。それは何ですか。

コンピュータを使用して確認テストを実施すると、結果をすぐに知ることができ、テストの結果に応じてメッセージが表示されるようにした。また、解説ページを見ることで間違ったところをすぐに確認できるようにした。PDF形式はペーパーテストとしての活用、ワープロ文書形式は設問を容易に変更できるように用意した。

図9 確認テスト(Web形式)

次の文章は、個人情報について述べたものである。正しいものにチェックしなさい。

- 本籍地は行政上の公開される個人情報なので、他人の本籍地を公開してもよい。
- 性別は基本4情報なので、電子メールで問い合わせがあれば回答しなければならない。
- 基本4情報は公開される可能性が高いので、それを他人が公開してもプライバシーの侵害にはならない。
- インターネット利用時に個人情報を提供する場合、それが活用される可能性がないかを考えなければならない。
- インターネット上の掲示板では、匿名発言ができるので、差別的な表現をしてもよい。
- インターネットにクレジットカード番号を流しても危険はない。
- 行政機関が住民の個人情報を扱う仕事を外部に委託するのは好ましくない。
- 大学が学生の成績の電算処理を外部に委託するのは好ましくない。
- 個人情報を保護しようとする法律が制定された。
- 多くの自治体で、個人情報の漏えい不起きような保護制度ができつつある。

このボタンを押して結果をみる → [結果](#)

エ 確認テスト

確認テストは、生徒が授業時間の最後に、学習内容を「×」形式で解答するもので、情報モラルを守る態度の意識付けを目指して行う。確認テストは、PDF形式、Web形式及びワープロ文書形式の三種類を用意した。Web形式(図9)では、

オ 自己評価表

自己評価表は、生徒自らが学習した内容のポイントを再確認するために行う。評価項目を「よく理解できた」、「だいたい理解できた」、「あまり理解できなかった」の三つで評価する。教師が自分の指導を分析することにも役立ち、指導技術を向上させることにもつながる。

授業実践

1 授業実践計画

対象	群馬県立前橋商業高等学校 情報処理科1年1組 男女40名
単元名	プログラミング(情報モラルに関する授業を特設)
指導期間・時数	平成17年10月19日～27日 6時間
授業者	T1(長期研修員) T2(商業科教諭)

2 単元計画

時間	指導項目	指導目標
1	ネット被害への対処 [教室]	インターネットを利用した犯罪の例を通してその特徴について考えさせ、犯罪に巻き込まれないようにする意識をもたせる。
2	ネットワーク上のエチケット [実習室]	インターネット上におけるエチケットの必要性を考えさせ、エチケットを尊重し、実践する意識をもたせる。
3	情報の信頼性 [実習室]	Webページなどによる情報収集においては、目的意識をもって自分に必要な情報を主体的に探し出し、他の情報と比較しながら信頼性を常に見極めようとする意識をもたせる。
4	人権・プライバシーの尊重 [実習室]	インターネット上で、人権やプライバシーの侵害につながるような悪質な情報が流れている要因について考えさせ、人権やプライバシーを尊重したネットワークの利用を心がける意識をもたせる。
5	個人情報の保護 [実習室]	ネットワーク上で送受信される情報は、第三者に悪用される可能性があることを考えさせ、個人情報保護の原則に則し、個人情報を慎重に取り扱う意識をもたせる。
6	健康上の問題 [実習室]	コンピュータなどが体や心に及ぼす影響について考えさせ、自らの健康を適切に管理していこうとする意識をもたせる。

3 検証計画

対象	検証の観点	検証の方法
教師	本指導資料集が、教材研究や授業実践に役立ったか。	本指導資料集を活用した教師に対するアンケートの分析

生徒	本指導資料集が、情報モラルを守る態度の意識付けに役立ったか。	ワークシートの分析、授業記録（生徒の発言・態度）の分析、確認テストの分析、自己評価表（授業実施後）の分析
----	--------------------------------	--

4 本時の展開(個人情報の保護)

時間	主な学習活動	教師の支援及び留意点	評価項目
25分	個人情報とプライバシーについて考え、ワークシートにまとめる。	<p>個人情報とはどんなものかを考えさせ、その取扱いがもたらす影響について意見を発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取扱いは、プライバシーの尊重と関連付けてとらえること。 インターネット上に公開されている個人情報にはどのようなものがあるかを紹介し、その是非について意見を発表させる。ワークシート（教材提示装置から生徒用モニタへ提示） 個人情報にはどのようなものがあるか。 知られたくない個人情報にはどのようなものがあるか。 プレゼンテーション教材（教師用コンピュータから生徒用モニタへスライドを提示） <p>個人情報 の大切さを考えさせ、公開しないことの重要性について意見を発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者による収集の問題を真剣にとらえさせる。 個人情報が流出して問題になることを、事例を通して考えさせる。ワークシート（教材提示装置から生徒用モニタへ提示） 事例による問題点の指摘及びとるべき行動を考察する。 プレゼンテーション教材（教師用コンピュータから生徒用モニタへスライドを提示） 	<p><思考・判断> 個人情報の大切さを理解し、情報モラルを踏まえた適切な判断をしている。</p> <p><知識・理解> 個人情報の大切さを理解し、安易に個人情報を発信しないように注意することの重要性を身に付けている。</p>
15分	個人情報の保護対策について考え、ワークシートにまとめる。	<p>日本における個人情報の保護対策にはどのようなものがあるかを説明し、それに関しての考えを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 難しい法令等は簡単に要点のみ説明する。ワークシート（教材提示装置から生徒用モニタへ提示） 事例による問題点の指摘及びとるべき行動を考察する。 プレゼンテーション教材（教師用コンピュータから生徒用モニタへスライドを提示） 安易に個人情報を公開しないことが、最良の対策であることを考えさせる。ワークシート（教材提示装置から生徒用モニタへ提示） 情報発信時の留意点をまとめる。 プレゼンテーション教材（教師用パソコンから生徒用モニタへスライドを提示） 	
10分	確認テストを受け、本時の学習内容を復習する。	<p>確認テストの解説を行い、本時の学習内容のまとめとする。 確認テスト（Web形式）及び解答・解説のページ 生徒が個々にサーバへアクセスし、解答する。</p>	

使用する教材
生徒の活動

5 結果と考察

(1) 教師にとって本指導資料集が、教材研究や授業実践に役立ったか。

本指導資料集を活用した四名の商業科の教師からは、「指導用の資料も充実しており、スムーズに教えることができた」、「詳細なデータ、きめ細かな例示、手間をかけたアンケートなどが十分用意されており、1時間の授業をするのに必要な教材が提供されていた」という意見があった。また、ホームルームで「健康上の問題」を指導した普通科の教師からは、「普通科の教師が指導するには、かなりの教材研究が必要となるが、指導内容の解説ページを印刷して教材研究できたので、上手に指導することができた」という意見があった。指導用の資料と教材をWeb形式でまとめた

ことにより、教材研究や授業実践では十分に活用できる指導資料集であると言える。また、「プレゼンテーションソフトを駆使し、視覚的にも楽しめる授業展開ができた」という意見も聞くことができた。中には、指導内容の解説にあるグラフや図をプレゼンテーション教材に取り込んで、改良して活用する教師もいた（図10）。以上のことから、本指導資料集を活用することは、教師にとって教材研究や授業実践に有効であったと考え

図10 改良教材を使用した授業



(2) 生徒にとって本指導資料集が、情報モラルを守る態度の意識付けに役立ったか。

プレゼンテーション教材の使用と並行して、生徒にはワークシートに取り組みさせた(図11)。その際、少人数の

図11 ワークシートへの生徒の取組



グループで意見を出し合いながら、作業を進めていく形を取ることが多かった。ワークシートで取り上げた事例が高校生の身近

で起こり得るものであるため、意欲的に取り組み、様々な視点から意見が出ていた。「知らないこともたくさんあった」という生徒は、友達の意見を聞きながら、自分なりに内容をまとめ、ワークシートに記入していた。この段階で、生徒は情報モラルを踏まえて、よく考え、正しく判断できるようになった。確認テストでは、Web形式を使用して制限時間内に解答し、自己採点を行わせたため(図12)、「すぐに間違った問題の解説を確認できたのでよかつた」といった感想を聞くこともできた。授業を終えた生徒の自己評価表をまとめ、分析を行った。図13は自己評価表であり、図14はその自己評価項目を分析した自己評価分析グラフである。

図12 確認テストへの生徒の取組



本時の授業における指導のポイントであった自己評価項目「6 安易に個人情報を公開することの危険性が理解できたか」と「7 他人の個人情報を勝手に公開することの問題点が理解できたか」については、ともに92.5%の生徒が「よく理解できた」と回答していることから、個人情報にかかわる諸問題を身近な問題としてとらえ、学習内容を理解することができたことが分かった。

一方、自己評価項目の「4 プライバシーガイドラインが個人情報保護対策の一端を担っていることが理解できたか」と「5 個人情報保護に関する法律について、その概要が理解できたか」については、アンケートでは約50%の生徒が「だ

い理解できた」、「あまり理解できなかった」としていることから、理解が浅かったことが分かる。これは、ガイドラインや法律が身近でないことが原因であると考えられる。特に「個人情報保護に関する法律」は事業者に対する規則を示したものであるため、その存在を知らせる程度でよいと考えた。

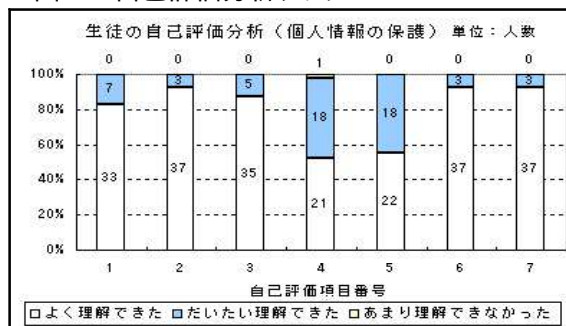
また、自己評価表の最後に「あなたがこれから情報収集・情報発信する上で、個人情報にかかわる実践していきたいマナーとは何ですか」という設問を用意したが、それに対する記入内容の中に、「個人情報がどのように使われるかを確認する(利用規約を読む)」、「データが暗号化して送られるか確認する」、「安易に個人情報を公開しない」、「他人のことを配慮する」などの回答が見られたことから、情報モラルを守る態度の意識付けができたことが分かる。

図13 自己評価表

自己評価項目(内容)	評 価		
	A	B	C
1 個人情報の概要が理解できたか。			
2 公開される可能性の高い個人情報にどのようなものがあるか、理解できたか。			
3 収集してはいけない個人情報にどのようなものがあるか、理解できたか。			
4 プライバシーガイドラインが個人情報保護対策の一端を担っていることが理解できたか。			
5 個人情報保護に関する法律について、その概要が理解できたか。			
6 安易に個人情報を公開することの危険性が理解できたか。			
7 他人の個人情報を勝手に公開することの問題点が理解できたか。			

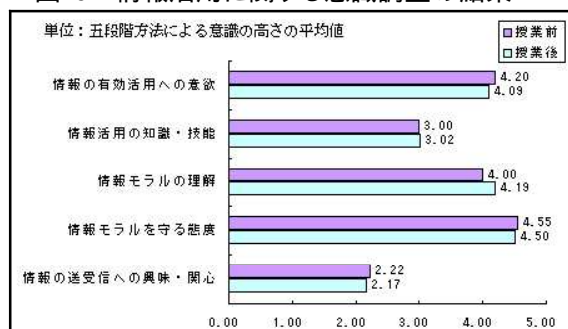
●あなたがこれから情報収集・情報発信する上で、個人情報保護にかかわる実践していきたいマナーとは何ですか。簡潔に答えてください。

図14 自己評価分析グラフ



さらに、5段階方法による「情報活用に関する意識調査」の結果(図15)から、本指導資料集を

図15 情報活用に関する意識調査の結果



活用した授業前と授業後の「情報モラルの理解」についての生徒の変容は、大きな差ではないが、クラス平均の数値が0.19高くなったことが分かる。また、「情報モラルを守る態度」については、授業前が4.55であり、授業後は4.50であった。ほとんど変化が見られなかった理由として、中学時の進路選択で、専門高校（商業高校情報処理科）を選んで入学した生徒であるため、コンピュータや情報の活用に関する意識が高く、「情報モラルを守る態度」については入学時から高い水準であったために、変容が表れにくかったことが考えられる。

研究のまとめと今後の課題

本研究で作成した「情報モラル指導資料集」を授業で活用した結果、以下のことが明らかになった。

指導系統表と年間指導計画によって、情報モラルの指導学年、指導時期及び配当数が明確になり、授業展開例によって、授業を円滑に進めることができた。また、指導内容の解説にあるグラフや図をプレゼンテーション教材に取り込んで活用することによって、よりポイントを押さえた指導が可能となった。さらに、リンク集に掲載したリンク先から資料を容易に短時間で収集することができるようになった。ワープロ文書形式で授業展開例、ワークシート及び確認テストなどを用意したことにより、生徒の実態に応じた資料や教材に編集することもできた。このように活用することで、教師にとって教材研究や授業実践に役立つことが分かった。

視覚に訴えるプレゼンテーション教材により、学習内容を学ばせ、ワークシートを活用して、具体的事例における問題点と対策を考えさせることができた。そして、確認テストによって学習内容を確認させ、自己評価表によって学習内容のポイントを再確認させると同時に、今後の自分の行動について考えさせることができた。このように活用することで、生徒にとって情報モラルを守る態度の意識付けに役立つことが分かった。

以上のことから、高等学校において、教師にとって教材研究や授業実践に役立ち、生徒にとって情報モラルを守る態度の意識付けに役立つ情報モラル指導資料集を作成することができたと考え

る。

今後は、新たなネット被害や巧妙な犯罪手口が出てくることが考えられるので、指導資料集自体の更新が必要である。できるだけ新しいデータを掲載することが重要となるので改訂を行い、広く活用される指導資料集にしたいと考えている。

<参考文献>

- ・情報教育学研究会 著 『インターネット社会を生きるための情報倫理』 実教出版(2005)
- ・独立行政法人情報処理推進機構 編著 『IT時代の危機管理入門 情報セキュリティ読本』 実教出版(2005)
- ・財団法人インターネット協会 著 『インターネットにおけるルール&マナー公式テキスト』 財団法人インターネット協会(2005)
- ・延味 道都・檜原 毅・宮崎 猛 著 『高等学校普通教科「情報」授業プランと実践事例』 小学館(2003)
- ・財団法人インターネット協会 監修 『インターネット白書2005』 インプレス(2005)
- ・富士通オフィス機器株式会社 著 『よくわかる高校生のための情報セキュリティ』 FOM出版(2005)
- ・『ぐんまIT活用ガイド』 群馬県教育委員会(2004)

<商標について>

- ・Microsoft Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- ・Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- ・一太郎は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- ・Microsoft Wordは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標Microsoft Wordを指します。
- ・Microsoft PowerPointは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標Microsoft PowerPointを指します。

(担当指導主事 今井 俊一)